

課題管理実施報告書

報告日：2010年 7月 30日

プログラム	アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業
課題名	インドネシアにおける生態分野のネットワーク形成とキャパシティビルディングのためのワークショップ
実施日	2010年 7月 16日(金)～7月 19日(月)
場所	インドネシアバリ島 プリ・ダラムホテル
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ <u>ワークショップ</u> ・その他() 展示物：有(機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他()) <u>無</u>
対象者	一般 学生(中学・高校・大学) その他(熱帯植物の研究者)
来場者	人数： 49名、(内訳 日本人11名、インドネシア人36名、その他2名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース <u>HP</u> 、 <u>メール発信</u> その他()
実施者	○実施取り纏め者を記載 鈴木英治、教授、鹿児島大学・理工学研究科(理学系)
内容	○実施内容を具体的に記載 7月16～19日の4日間にわたり、38件の予定が1件の取り消しにより37件の講演を行った。参加者は49名で、その内24名がJSPS予算によって参加した。インドネシアの植物生態、多様性の研究についての報告を受けて、その現状についての共通認識を持つとともに、調査法の問題点に関して議論を行った。さらに、日本熱帯生態学会の運営に関して同会の幹事長らが紹介し、インドネシア生態学会を今後どのように運営すべきか、日本の学会との協力関係の強化について議論した。
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 集まったのは49名であるが全員職についている研究者であり、スマトラからイリアンジャヤまでインドネシアの熱帯植物学会関係者が、これだけの人数で集まることは従来ほとんどなかった。さらに日本熱帯生態学会の前会長以下評議会メンバー5名、日本生態学会会長1名が参加したので、インドネシアにおける学会活動を今後進めるための指針を与えることができ、学会としての相互交流について議論を深められた。 ○ 実施上の問題点を具体的に記載 次の欄にも記述するように予算決定から、4か月ほどしかなかったので準備に十分な時間が取れなかった。 ○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載 多くの議論があり実り多い会議であったがひとつの合意事項として、日本熱帯生態学会の年次大会をインドネシアでインドネシア生態学会と合同で行うために努力をすることになった。今年で20回を数える熱帯生態学会の大会は国内だけで行ってきたが、今回の会議を機にインドネシアとの関係のさらなる強化のために2年後にインドネシアで合同大会を実施する予定である(来年の開催地は沖縄に決定済み)。 インドネシアと研究上の関係を持っている日本の熱帯生態学研究者は多い

	<p>が、学会として何らかの共同事業を行うことはインドネシア以外の熱帯各国とも今までなかったことなので、相手国のみならず日本側の学会にも刺激になった。</p>
--	---